

# 膠着状態のボベスパ市場

Gradual 証券会社 Nikkei Desk 責任者 今井恵美

8月31日にブラジル中銀が今までの姿勢を変更して、突然とも言える形で金利を0.5%切り下げたことは、国内だけでなく世界の注目を浴びた。中銀報告によれば経済活動が縮小する見通しで、ブラジルのインフレ圧力を減らすとしている。しかし8月のインフレ率（IPCA）は0.37%、今年1～8月の累積は4.42%、過去12ヶ月の累積は7.23%と強い上昇を示している。毎月曜日に報告される中銀レポートでも年内と来年のインフレ見通しは上昇とみている。

今年の9月15日でリーマン・ショック3周年を迎えた。

9月8日にオバマ大統領は景気・雇用対策を発表した。社会保障税の減税延長を柱に市場予測の3000億ドルを超える大規模な4470億ドル（約35兆円）と大規模な景気対策だ。さらに公共事業の積み増しで3万5000以上の学校施設の改善修理、公共交通インフラ整備なども行う。演説の中で強調した政治的対立を越えようという提案は、おおむね民主、共和両党に支持された。

経済を立て直す事で論争の余地はないという演説は良かった。共和党としても雇用対策を今何もせず、来年の大統領選挙後に自前の景気政策をするまで国民を待たせるとすれば、反感を買うリスクがある。

現在の欧州危機の中で、債務問題を抱えたギリシャと、その国債を多量に保有する欧州金融機関は問題が深刻化している。投資家の金融システムに対する不安が、今の金の価格に現れている。ギリシャの第2四半期の経済成長率はマイナス6.9%、昨年同期比マイナス7.3%、ギリシャ自体の国内総生産はユーロ圏の3%に満たない。ユーロ圏の第2四半期は+0.2%、昨年同期比で+1.6%となっている。

ギリシャの財政問題をどんな政策で解決し、市場の落ち着きをとり戻せるか注目される。

中国の温家宝首相は14日、欧州の債務危機に対して中国は常に欧州を支援する事を明らかにした。米国に対しては世界最大の先進国で強い基盤があり、米国が困難を克服する事を信じていると述べた。

サンパウロ株式取引所への外国資金の動き

(100万レアル)

IMFは世界のGDPを2011年に+4.0%、2012年は+4.2%の成長とみている。

為替相場は7月26日に1,5290レアル/ドルで底を打った。上の壁は1,6580レアル/ドルで、1,739レアル/ドルを超すと、1,7876レアル/ドル、1,8700レアル/ドルまで来る可能性がある。ドルの上昇と共に鉄鋼株が回復した。特に米国に進出しているゲルダウは、オバマ大統領の景気政策で米国のインフラ設備関連株として買われている。

	R\$	US\$	US\$平均
2007年	▲4,235.45	▲2,391.29	1.77
2008年	▲24,629.68	▲14,038.13	1.75
2009年	20,596.58	10,394.87	1.98
2010年	5,958.02	3,516.31	1.69
2011年(*)	6.32	57.34	0.11
1月	401.41	239.66	1.67
2月	▲1,184.39	▲710.07	1.67
3月	▲1,771.17	▲1,067.48	1.66
4月	▲1,116.48	703.78	1.59
5月	2,903.59	1,799.56	1.61
6月	▲344.24	▲216.91	1.59
7月	1,400.14	895.17	1.56
8月	▲399.31	▲250.13	1.61
9月(*)	116.77	71.32	1.64

\* 9月6日まで 提供: BM&F BOVESPA